

恐れに勝つて契約へ(ルカ 12:1-12)

イエス様は、大勢の人が集まっていたときに、まず弟子たちにお話をされました。パリサイ人のパン種、つまり、パリサイ人の偽善に気をつけなさい。それを警戒しなさいとおっしゃっています。そのようにおっしゃりながら、あなたがたは心配などしないで、恐れることなどをしないようにとおっしゃいました。信者なのに不安になり、心配して、また恐れることがあれば、実はサタンに引きずられるようになるからです。それでイエス様は、あなたがたは恐れてはいけません。恐れるべき方は神様ひとりしかいらっしゃらないので、何も恐れないように、何も心配しないようにと勧めていらっしゃいます。それで、信者であるあなたがたは何があっても必ず勝利するようになるからということを確認されました。イエス様がなぜパリサイ人の偽善を取り上げて恐れないようにとおっしゃったでしょうか。パリサイ人の偽善と恐れることと、どういう関係があるのでしょうか。どのような因果関係があるのでしょうか。そのことを今日の聖書を通して確認して、信者の私たちはこれからこの偽善を剥がして、偽善による不安と心配と恐れから自由になり、解放されて、そういうものに囚われることなく神の契約の方に進んでいく、そういうクリスチャンになりたいなと願います。

1. 靈的問題に目が開かれると偽善が剥がされ恐れから解放される。

そのために、まず第一に、靈的な問題に目が開かれるとき、今までの偽善が剥がされて、それによる恐れから解放されることになります。

つまり、恐れ、不安、心配ということは、そうせざるを得ないことがあるからではなくて、偽善を身にまとっているから不安になるということなのです。もう一度申し上げます。靈的な問題に目が開かれると、今までの偽善が剥がされて、その偽善による心配と恐れから解放されることになります。靈的な問題というのはどういうことでしょうか。何が靈的な問題でしょうか。

1) 絶対解決不可能な原罪

①創世記 3章、ローマ 3:23、ヨハネ 8:44

それは、私たち人間としては絶対解決不可能な原罪のことを意味します。それに本当に気づいて、目が開かれて、それを心から認めているかどうかによって心配の人生、恐れの人生を歩むのか、あるいは契約の人生を歩むのかに分かれることになります。絶対解決不可能な原罪とは何でしょうか。人は神様のかたちに造られて、神様と一緒にいる者だったのに、罪を犯してその神様を離れて神を失ったことが問題です。それがすべての問題です。神を離れた結果、自分では絶対抜け出すことができない、罪と地獄と呪いの運命に囚われることになりました。その結果、誰もわかつていないでしょうけれども、あなたがたは、あなたがたの父である悪魔から出た者である、悪魔の奴隸になってしまします。そうなってしまいました。これは何をどうしても絶対解決不可能な問題です。

②エペソ 2:1-3

その解決を不可能な原罪の問題を抱えているので、聖書は私たち人間のことをこのように教えています。自分の罪と罪過の中で死んでいた者であって。人間は肉体だけのものではありません。また、このいのちだけのものではありません。たましいのある靈的な存在です。その神様と一緒にいて、神に祝福されて、神のすべてが私を通して現れるようになっているその靈が死んでしまいます。たましいが死んでしまったことになりました。なので、自分の意志と全く関係なく、自動的に空中の権威を持つ支配者、目に見えない悪魔サタンに従って生きるしかありません。私がこれから悪魔に従って生きていくよと決心するからではなくて、悪魔サタンが、たましいが死んだ人間を引っ張るために、世の流れというものを作り出して、宗教、偶像崇拜、占いやシャーマニズム、超能力、さまざまな思想やイデオロギー等々をつくり上げて、そのイデオロギーの一番の核心はヒューマニズム、人間中心主義なのです。そういうことに自動的に引っかかって従っていくようになります。それが実は惡靈に従うということも知らずに。それが人間です。それを靈的問題と言います。その結果が、精神的にも肉体的にも人間関係にも 家庭関係の中にも、

さまざまなところにその症状が現れることになります。私たちは表に現れている問題だけを見て問題だと思うのでしょうか、私たち人間の問題はそんなに簡単な問題ではありません。場合によっては犯罪に手を染める場合もあります。麻薬に手を出す場合もあります。人には言えない、断ち切れな習慣に悩まされる場合もあります。しかし、それが問題ではありません。たましいが死んでしまい、悪魔サタンに従った結果なのです。なぜそうなってしまうのかと言いますと、神を失い、あなたがたはあなたがたの父である悪魔から出たものになってしまったので、そうならざるを得ないものなのです。何をどうしても解決できない問題です。この原罪の問題は、アダムとエバのときにあった問題ではなくて、今もずっと続く問題です。時代がどう変わろうが、この問題は変わりません。肌色がどう違うか、文化が、経済的なレベルがどう違うか、知識の程度がどう異なるかなどと全く関係なく、すべての人にこの問題はあるわけです。だから聖書には、すべての人は罪を犯したので、神からの栄養を受けることができない。この絶対解決不可能な原罪、靈的な問題にすべての人類が捕らえられているわけです。

③Only キリスト

この靈的な問題が何か、これは絶対解決不可能だということに目が開かれたときに、その人は心から、だからキリスト Only なんだ。キリストの他には答えがありません。キリストの他には道がありません。キリストの他には希望がありません。キリストの他には救いはありません。Only キリストなのです。世界中で、この御名の他に、私たち人間が救われるべき名として、どのような名も与えられていません。イエス様ご自身もおっしゃいました。わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれひとりとして父のもとに来ることはできません。キリスト・イエスの他に答えはありません。道はありません。頼りはありません。救いは絶対ありえません。

2) 知らないと

①違う包装-偽善

なのに、この靈的な問題、絶対解決不可能な原罪の問題が何か分かっていないと、しかも、その人が教会に通っている人であっても、この靈的な問題に目が開かれていません、これを知らない、あるいは認めようとしないと、キリストの他の違うもので自分を包むことになります。キリストでない違うもので身にまとめて自分を包装してしまうようになります。これを指して偽善と言います。私たちが偽善と言われたときのイメージは、政治家が心の中では自分のことばかり考えてるのに、国民の前ではもっともな甘い話をするを見て偽善者と思うのでしょうかとも、いま聖書が言っているパリサイ人のパン種、偽善というのはそういう話ではありません。彼ら自身も自分がいま偽善をまとっていることに気づいていません。自分が偽善者だという自覚がありません。靈的な問題が分かっていないがゆえに、キリストの他に違うものを頼りにして、違うものに答えを求めて、違うものを身にまとめて、それを人生の中心にするしかありません。それを偽善と言うわけです。なぜなのでしょうか。自分で悪いとも思っていません。これが一番の問題なのです。意識がないし、自覚がないのです。パリサイ人はそうでした。ユダヤ人はよかれと思って、自分では良い信仰のつもりなのです。しかし、原罪、サタンの惡魔の奴隸となっているその靈的な問題が分かっていないと、それを認めない限りは、仕方がなく Only キリストにならないので、残念なのは、教会に通って礼拝をささげているにもかかわらず、Only キリストではなくて、キリストの他の何かで自分を包むようになってしまいます。それがキリストではなくて自分自身になるのです。良いことも自分で、悪いことも全部自分で、自分で自分を包むわけです。その自分というのが靈的な問題に 1 ミリも役に立たないし、答えにならないということを知らずに、自分にこだわるわけです。行いがどうのこうにこだわるわけです。行いがどうでもいいという幼稚な話ではありませんが、人間の行いがどれほどすごいものがあつたとしても、靈的な問題には 1 ミリも答えになりません。なのに行いにこだわるわけです。行いで自分を包装して、包んで、それを身にまとおうとしているわけです。サタンの好都合なのです。これがパリサイ人でした。キリストの他にお金で包もうとして、健康で自分を包もうと、名譽によって、この世の成功などで包装しようとするわけです。また、人によって自分を包もうとして、結局、人によってというのは、人の愛情にこだわるわけです。人の愛情は大切なものです。しかし、どんなにすごい愛情でも、原罪、靈的な問題には何一つ役に立たないものなのです。なのに、靈的な問題が何か分かっていないか認めない限りは、教会に通っていても違うものにこだわることになります。場合によっては、自分のプライド、自尊心というもので自分を包む場合もあります。プライドが、自尊心がどれほど大切なもののなかわ

かりませんが、それでは悪魔のしわざに対しては、私たちが抱えている一番根本的な靈的な問題には何の役にも立たないものなのです。

②包装中心の人生-評価と勝負

なのにキリスト他にこういったものにこだわり、それで自分を包もうとして、その包装したものを中心にして人生を生きていこうとします。だから、先ほども申し上げましたように、自分自身に答えを求めて、お金や名誉、人の愛情等々に答えを求めて、またそれに価値を置いて、何かを評価したり選択するときの基準にするわけです。そして、そういったもの、キリストの他に包装して包んでいるもの、それを目標にして人生を生きていくことになるわけです。だから、みな不安になり、心配をし、恐れるしかありません。皆さん、何が不安でしょうか。なぜ心配しているのでしょうか。その理由は何でしょうか。何がそんなに怖いのでしょうか。いまキリストの他に包装しているものの、それが不安定で永遠なるものではないので、いつどうなるかわかんないから、そのキリストの他のもの、包装しているもの、それが足りないから不安でしょう。またそれがあつて、減るかと思って不安でしょう。そういうことではないでしょうか。皆さん、何が不安材料でしょうか。健康が損なうのではないかということで不安じゃないでしょうか。いま病気の人は元気ではないから不安で怖いでしょう。キリストの他のものが中心になっているからなのです。自分ではそういう自覚意識がないでしょうが、偽善者だから怖いわけです。キリストの他に私たちがこだわり、頼り、また気にしているすべての包装というものは不安定なものなのです。そういうものが中心なので、それにこだわってる限り、不安から自由になることはできません。

③サタンの包装攻撃-不安と恐れ

サタンはそういうことがよくわかっているから、信者の私たちでもその包装しているものを攻撃するわけです。そうすると、私たちはつい不安に陥って、恐れることがわかっているから。イエス様はおっしゃいました。あなたがたの命を奪っても、その後何もできないものを恐れてはいけません。キリストの他に私たちがこだわっているものの中で一番究極的なものが、私たちの肉の命なのです。この肉の命も私たちがこだわるべきものではありません。この命が 100 個あっても、靈的な問題、原罪の問題は解決できません。なので、私たちのこの命も人生の中心ではありません。Only キリストなのです。なぜそうならないのでしょうか。クリスチャンの私たちは平安のうちに、神様の答えによる勝利の道、残された者の道、巡礼者の道、征服者の道を歩くべきなのに、なぜなかなかそのようにならないのでしょうか。こだわりがまだ違うものなので、Only キリストになっていないからです。サタンは、私たちがこだわっているキリスト以外のもの、それはいくらでも攻撃できます。ただキリストは攻撃できません。キリストによって与えられているいのちの祝福は攻撃できません。なので、そういうものを恐れてはいけません。言葉を変えますと、なぜ Only キリストではなくて、キリストの他のさまざまなものにこだわっているのかとおっしゃっているわけです。それが救われる以前は当たり前だったかもしれません。なぜでしょうか。救われる以前は神様を知らないし、靈的なことなど全くわかつていなかつたので。しかし、残念ながら神の恵みによって救われたにも関わらず、そのこだわり、言葉を変えますと、悪魔サタのやぐらがそのまま残っているので、それに振り回されることで不安になり、心配をして、嫉妬したり、憎んだり、比較したりするようになるわけです。兄弟の中でも兄弟の誰かは頭が良い。良い学校に入った。なんで私は頭がこんなに。良いところに就職した。才能あるね。他の人はそのように比べて私を無視するかもしれません。それが世の中のレベルなので。しかし、もし自分が信者であれば、なぜそういうことで比較したり、落ち込んだり、あるいは優越感に浸ったりするのでしょうか。靈的な問題がもしかしてわかつていないのではないでしょうか。キリストの他の何かにこだわってるからではないでしょうか。Only キリストなのです。

3) 偽善からの解放

なので、そのように恐れて、心配をして、人と比較したりしていたそういう人が、靈的問題が何かほんとにわかつたときに、その偽善から解放されます。まるでパウロがキリストと出会ってから、キリストの他のすべてをちりあくたと宣言したかのように自由になります。これは肉的なものを無視するという意味ではありません。しかし、こだわりません。それによって左右され、それが私の心配と恐れの材料にはならなくなります。それをクリスチャンの信仰と言います。聖書にはそのような証拠がいくらでも紹介されています。

①ヨブ

私たちはただ聖書に書いてあるものだと軽くパスしてしまったかもしれません、ヨブという人間のことをご存知だと思います。ヨブは子どもたちがみないっぺんに殺されてしまい、財産が全部なくなり、また体は皮膚がんのような病気にかかってしまいました。もしヨブがキリストの他の何かにこだわっていたとすれば、つまり偽善者のままであれば何回でも自分で命を絶ってしまったのではないかでしょうか。しかし、ご存知のように、ヨブは恐れることなどありませんでした。与えられた方も神様であり、持っている方や神様であり、私は裸で生まれたものなので威張っていたのではなくて、恐れることなく信仰に立っていました。威張るわけではありません。そういうものから解放されているから。そういう意味で、心配したり恐れるということがどれほど危ないことなのか、信者としてはそれによく気づかなければなりません。

②ダビデ

ダビでも死の影の谷を歩いていました。だったら怖くて怖くてしょうがないのが普通ではないでしょうか。私たちもいつもそう思います。なぜそう思うのでしょうか。もしかしたら、靈的問題が理論だけであって、実際に心から認めていないかもしれません。なので、キリスト、キリストと言いながらも、実際、中心、こだわるものは別にあるからではないでしょうか。そこが触られると耐えられないのです。健康にダメージを受けたり、経済にダメージを受けたり、人間関係にダメージを受けたり、家庭に何かのトラブルが起きたりすると、怖くて怖くてしょうがない。そうなるとどうなるのか。そうならないように、祈りもいつもそういう祈りばかりなのです。怖がっているから。悪魔サタンに遊ばれて引きずられることになってしまいます。いつ聖霊が臨まれると、エルサレムから地の果てにまでわたしの証人となるよという契約の方に移すことができるのでしょうか。もう死ぬ時までできません。ずっとそういう状態で教会に通うわけです。それで「私がこれほど礼拝に参加して、献金もして祈ったのに、神様、なぜ私にはこういうことが起きるのでしょうか」といつもそういうことの繰り返しなのです。悪魔に遊ばれるクリチャンにならないように。だから、偽善と恐れとの因果関係を正しく理解して、改めて靈的な問題にこだわるように。本当に自分はそれを素直に認めているのか、自分は救われる以前にそこにいたと認めているのか。だからキリスト Only になっているのか。どんな理屈があれ、どんな理論があれ、キリスト Only を妨げるものはすべて偽りなのです。

③パウロ

偽善から解放される。パウロも言いました。パウロは刑務所の中に入れられて、しかも鞭で打たれたり、私たちの想像をはるかに超えた苦労をしていたわけです。しかし、パウロは1度も恐れることはありませんでした。先ほども申し上げましたように、誰かさんと比較したり、兄弟の中で比べたりしていましたが、これからは誰が Only キリストなのか、そこを羨むのが信者です。羨むという表現がおかしいのですが。才能があるかどうか、誰かに認められるかどうか、全部肉のことなのです。なぜそういうことを材料にして、それにこだわって、それを材料にして比較したり比べたりしているのでしょうか。自分自身を顧みて吟味しないといけません。パウロは言いました。「私は貧しくあることも知っており、富むことも知っています。満ち足ることにも、飢えることにも、富むことにも乏しいことにも、ありとあらゆる境遇に対処する秘訣を心得ています。私を強くしてくださる方によって、私はどんなことでもできるのです」 ピリピ 4：12-13。どういう意味なのでしょうか。肉的にこだわるものなどは一切ないので、私はそれによって左右されることなどありません。これが自由なのです。

④ステパノ…

結局、ステパノは石に打たれて死んでしまいます。命が奪われました。にもかかわらず、ステパノは恐れていません。その命はキリストではないから。彼はキリストにとらわれているものなので、キリスト Only なので、キリストは永遠に奪われることがないので。だから、パウロはコリントの手紙にこういうことも書いています。キリストは私の義、キリストが私の清き、私の力、キリストが私の喜び、満足、私の幸せ、私の希望、私の誇りなんだと。私のすべてなんだ。なので、何がどうであろうが、キリストにある満足を奪われることなどはありません。キリストさえいらっしゃれば十分なのです。これが偽善が剥がされ

るということです。そうでない限り、私たちは自分なりに真面目に、自分のルールに従って、自分の理論に従って生きていこうとしていらっしゃるでしょうけれども、仕方なく偽善者として生きるしかありません。ヨハネ6：63に、「いのちを与えるのは御靈です。肉は何の益ももたらしません。わたしがあなたがたに話してきたことばは、靈であり、またいのちです」。5つのパンと2匹の魚で5000人以上を食べさせたときに、満腹になってイエス様についてきたその群衆に向かっておっしゃったことです。わたしがいのちのパンだよ。あなたがたは、パンを食べて満腹になったという奇跡を見たことはいいのですが、それで終わりになれば、それこそ悲しいことなんだよと。あなたがたが奇跡によるパンを食べたということは、イエス・キリストの体が十字架で引き裂かれて、それによってあなたがたは救われるしかないよ、わたしがいのちのパンだよということを教えるためなのです。つまり、あなたがたは、キリストの体が十字架で引き裂かれること以外に希望のない絶望的な原罪にあるということを示すための内容なのに、それに全く気づかないで、食べて満腹になった、奇跡を見たということにこだわっているので、という話なのです。そういう意味で、いのちを与えるのは御靈なんだ。肉は何の益ももたらしません。それにぜひ今日礼拝をささげている皆さんは答えを出していただきたいと思います。Ⅲヨハネ1：2にもこう書いてあります。「愛する者よ。あなたのたましいが幸いを得ているように、あなたがすべての点で幸いを得、また健康であるように祈ります」と。たましいが大事なのです。信者の私たちが心配や不安、恐れに打ち勝って次のステップに進むことができるためには、靈的な問題に目が開かれて、今までそれではなかったがゆえに身にまとっていたその偽善を剥がして、本当の意味でOnly キリストになるときに、皆さんは不安と恐れ、心配から自由になります。心配の材料が何でしょうか。大学に入れないから、お金がないから、就職できないから、病気になるから、全部そういうことが心配な材料でしょう。なぜでしょうか。靈的な問題が分かっていないので、肉に囚われて、肉にこだわっているからなのです。ほんとうに恐れに打ち勝つて、偽善から自由になっていただきましょう。メッセージを聞いて、家に帰って深く黙想するうちに、自分はもしかして信者なのに偽善者ではなかったのか、と吟味しないといけません。そこからスタートなのです。私はあまり嘘ついたことはありません。そんな次元の話ではありません。Only キリストでなければ、言葉を変えると、何かで心配をして不安になり、恐れているとすれば、もう偽善者なのです。信者の心配、恐れは偽善から来るものなんだということを覚えていてください。

2. 神様の絶対救いを認めると恐れから解放される。

もう一つ、イエス様がおっしゃいました。信者が恐れに打ち勝って勝利の道を歩むためには、神様の救いが絶対的なものだ、神様の絶対救いを認めるときに恐れから解放されます。

1) 6、7

今日の聖書6、7節でこう言っています。「五羽の雀が、ニアサリオンで売られているではありませんか。そんな雀の一羽でも、神の御前で忘れられてはいません」。神様は雀1羽も勝手に置いといてということはありません。すべて支配なさっていらっしゃるのです。「それどころか、あなたがたの髪の毛さえも、すべて数えられています」。髪の毛が何もない人には当たらないかもしませんが。「恐れることはありません。あなたがたは多くの雀よりも価値あるものなのです」。つまり、キリスト・イエスを信じて救われた信者の私たちが、どれほど価値ある存在なのかということがわかれれば恐れることなどありません。だから神様は、私たちは救われて1秒も私たちのことを忘れたこともないし、諦めることなどもありません。私たちはつい自分が弱くなったときには神様も弱くなるかのように思うのですが、それはその人の勝手なのです。神様はそういうことはありません。神の救いは絶対なのです。

2) 絶対導き

だから、救われたものは絶対に最後まで導かれます。

①危機

危機にあったとき、そのときも私たちは危機ばかり見ているけれども、神様は救われた者であれば導いていらっしゃるのです。

②患難

患難の中でも私たちはついつい恐れるでしょうけれども、そこでも神様は導いていらっしゃるのです。

③失敗…

私たちが失敗したときにも、神様はその失敗を叱るばかりではなくて、導いていらっしゃるのです。

3) 絶対保護

言葉を変えますと、神様は信者の私たちは絶対に守っていらっしゃいます。滅びることがないように。靈肉ともに守られます。しかし、メインは靈なので、たましいを守るためには、場合によっては肉はサタンに譲る場合もあります。そうしてでも神様は私たちを絶対に滅びることがないように守られる方なのです。

4) 絶対祝福

なぜかというと、私たちを絶対に祝福するから。その祝福は、もうすでに天にある靈的すべての祝福をいただいたのですが、それが表に現れて、237、5000未伝道種族を生かすことができるよう祝福しようと/or>いらっしゃるのです。それも絶対なのです。

5) 永遠のインマヌエル、日々のインマヌエル、常にインマヌエル

だから、神様はそのためにつまでも私たちと共におられます。目に見えないだけであって、私たちが忘れるだけであって、それが絶対救いなのです。絶対一緒にいらっしゃるのです。今も一緒にいらっしゃるのです。私たちが悪いことをしているときにも一緒にいらっしゃるのです。それで恐れることはありません。それさえわかつて信じることがあれば、恐れることはありません。だから、なぜ私たちが心配をして恐れるかというと偽善者だから。もう一つは、神様の絶対救いを信じない、神様が今もこれからもとおられることを信じないからです。神様がと/o>おられることをインマヌエルと言いますでしょう。だから、永遠のインマヌエル、日々のインマヌエル、常にインマヌエルです。そういうことで、聖書は信者の私たちにこのように語っています。ヨハネ14:1、「あなたがたは心を騒がせてはなりません。神を信じ、またわたしを信じなさい」と。心を騒がしてはいけません。不安になったり、心配したりしてはいけません。Iヨハネ4:18を見ますと、「愛には恐れがありません。全き愛は恐れを締め出します。恐れには罰が伴い、恐れる者は愛において全きものとなっていないのです」。本当に神の愛を知り、キリストを愛するものであれば、恐れることなどはないはずという意味なのです。これほど恐れないように、心配しないようにと勧めています。ピリピ4:6にも、「何も思い煩わないで、あらゆる場合に、感謝をもって」祈りなさいと。何も思い煩わないで。なぜでしょうか。今まで申し上げましたように、信者が思い煩い、恐れて不安になるということは、偽善によるものであり、信仰に欠けているからそうなるわけです。言葉を変えますと、悪魔に引きずられることになるから。Iペテロ5:7-8にも、「あなたがたの思い煩いを、いつさい神にゆだねなさい」と言われています。それから、先ほども申し上げましたように、ヨハネ6:63「いのちを与えるのは御靈です。肉は何の益ももたれません」。このことを改めて心に覚えましょう。これが私たちが不安になり、恐れている理由なのです。靈ではなくて肉にこだわっているから。

まとめましょう。なので、今日のメッセージを聞いて、単に今日も礼拝をささげたで終わらないで、メッセージを黙想しましょう。これから皆さんのが勝利の人生を具体的に歩まないといけないから。そのためにお召されているのです。なので、肉のこだわりによる自分を包んでいるもの、包装、身にまとっているものなどすべて脱ぎ捨てましょう。それで、キリストを着ましょう。

キリストを身にまといましょう。聖書にこう書いてあります。ガラテヤ3:27には、「キリストにつくバプテスマを受けたあなたがたはみな、キリストを着たのです」と言われています。ローマ13:14には、「主イエス・キリストを着なさい。欲望を満たそうと、肉に心を用いてはいけません」と言われているように、キリストを身にまとうようにしないといけません。身にまとうようにしましょう。そうすることで、今までこだわっていたテーマが壊れて、人生のテーマが変わります。何を食べるか飲むかではなくて、神の国と神の国のことがテーマになり、人生の方向をイエスをおあかしする証人の方に合わせることになります。それで、自分の現場から237、5000未伝道種族までの道しるべをしっかりと見て祈るようになります。今までこだわっていたものに対して、それはあなたがたは知らないてもいいよとそれを切り捨てて、聖靈が臨まれると、力を得て、エルサレムから地の果てにまで、わたしの証人となります。それが

私たちのこだわりであり、私たちの人生のテーマなのに、いつ私たちの国が再興できるのでしょうかにずっとこだわってとらわれていては、不安と恐れ、心配から自由にならないのです。ぜひ、礼拝をささげている皆さん、不安、心配、恐れから自由になって、偽善を全部剥がして、契約を握って、答えのある勝利の人生を歩んでいきましょう。

(祈り)

恵み深い父なる神様ありがとうございます。今日も礼拝を通して、神様が私たちをどれほど愛していらっしゃるのか、私たちを通してこれからなそうとしていらっしゃることはどういうことなのか、そのためにそれを邪魔する心配、恐れに打ち勝つ奥義を教えてくださりありがとうございます。ひとりひとりが自覚のない偽善にとらわれていないのかを吟味して、それを全部取り剥がして、Only キリストの信仰をもつて、神の絶対救いを信じて、恐れから解放されて、契約の方に進むことができるようひとりひとりを祝福してください。イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン。